

御文

末代無智の章

末代無智の在家止住の男女たらんともがらは、こころをひとつにして阿弥陀仏とふかくたのみまいらせて、さらに余のかたへこころをふらず一心一向に仏たすけたまえともうさん衆生をば、たとい罪業は深重なりとも、かならず弥陀如来はすくいましますべし。これすなわち第十八の念仏往生の誓願のこころなり。かくのごとく決定してのうえには、ねてもさめてもいのちのあらんかぎりは、称名念仏すべきものなり。あなかしこなかしこ。

御文

信心獲得の章

信心獲得すといは、第十八の願のこころうるなり。この願のこころうるというは、南无阿弥陀仏のすがたをこころうるなり。このゆえに、南无と帰命する一念の処に、発願廻向のこころあるべし。これすなわち、弥陀如来の凡夫に廻向しますこころなり。これを大経には、令諸衆生功德成就とけり。されば无始已来つくりとつくる悪業煩惱を、のこるところもなく、願力不思議をもて消滅するいわれあるがゆえに、正定聚不退のくらいに住すとなり。これによつて、煩惱を断ぜずして、涅槃のうといえるはこのこころなり。此義は当流一途の所談なるものなり。他流の人に対して、かくのごとく沙汰あるべからざる所なり。能々こころうべきものなり。あなかしこあなかしこ。

## 御文

### 聖人一流の章

聖人一流の御勸化のおもむきは、信心のもつて本  
とせられ候。そのゆえは、もろもろの雑行をなげ  
すてて、一心に弥陀に帰命すれば、不可思議の願力  
として、仏のかたより往生は治定せしめたもう。そ  
のくらいを、一念發起入正定之聚とも釈し、そ  
のうえの称名念佛如来わが往生を定めたまい  
し御恩報尽の念仏とこころうべきなり。あなかしこ  
あなかしこ。

## 御文

### 白骨の章

夫、人間の浮生なる相をつらつら観ずるに、おおよそはかなきものは、この世の始中終まぼろしのごとくなる一期なり。さればいまだ万歳の人身のうけたりという事をきかず、一生すぎやすし。いまにいたつてたれか百年の形体をたもつべきや。我やさき人やさき、きょうともしらず、あすともしらず、おくれさきだつ人はもとのしづく、すえの露よりもしげしといえり。されば朝には紅顔あつて夕には白骨となれる身なり。すでに無常の風きたりぬれば、すなわちふたつのまなこたちまちにとじ、ひとつのいきながくたえぬれば、紅顔むなしく変じて桃李のよそおいをうしないぬるときは、六親眷族あつまつてなげきかなしめども、更にその甲斐あるべからず。さてしもあるべき事ならねばとて、野外におくつて夜半のけむりとなしはてぬれば、ただ白骨のみぞのこれり。あわれとゆうもなかなかおろかなり。されば人間のはかなきことは老少不定のさかいなれば、たれの人もはやく後生の一大事を心にかけて、阿弥陀仏とふかくたのみまいらせて、念仏もうすべきものなり。あなかしこあなかしこ。